

【 J A P A N C U P 2 0 1 7 】

試 合 結 果 報 告

会 場:	熊本県・ウイングまつばせ
試合日:	平成 29 年 8 月 3 日 (木)

JHL(日本リーグ選抜)	VS	POR(ポーランド代表)
7	前半	9
15	後半	12
0	第1延長	0
0	第2延長	0
22	合計	21

戦評

平均身長でポーランド代表に対して大きく劣る、日本リーグ選抜は高い1-5 DFを敷きスピードで対応。GK①田口の好守もあり立ち上がり10分で2-2とロースコアの展開となった。

セットOFで攻め切れないポーランド代表は、中盤からポストプレーを軸に展開。相手DFの退場を誘い点差を開きにかかるが、日本リーグ選抜はGKを引き上げて対抗。⑬イナバのサイドシュート等が決まり点差が開かない。

ポーランド代表はそれでも、執拗にポストプレーを続け再度相手退場者を出す⑤モニカのカットインが決まり点差を開く。前半終了間際にはGKを上げ7人攻撃が決まり9-7と2点差にひろげて前半を折り返す。

後半立ち上がり日本リーグ選抜はサイドシュート・速攻で開始2分、9-9の同点に追いつく。その後は交互に点を取り合う一進一退の攻防が続いたが、13分日本リーグ選抜が退場者を出す間にポーランド代表は③マグダのサイドシュート等で16-14と2点リード。

しかし、日本リーグ選抜も速いパス展開から⑮高山のポストシュートが立て続けに決まり23分過ぎには19-19の同点に追いつく。その後も交互に点を取り合い残り2分同点の場面で③川崎のパスカットから⑥友野の速攻が決まり22-21と日本リーグ選抜が1点リード。

ポーランド代表は残り12秒でタイムアウト。ノータイムフリースローまで持ち込んだが⑤モニカのシュートは枠を捉えきれず日本リーグ選抜が逃げ切った。体格差を補うスピードと最後まで諦めない激しい闘争心を見せた日本リーグ選抜の勝利に観客席も大いに盛り上がったゲームであった。

報告記入者 :

北島 潤一